

飯舘村における将来世代への復興知継承に向けた教育研究プログラム



東京大学
大学院農学生命科学研究科



連携市町村：飯舘村
現地拠点：福島県相馬郡飯舘村佐須滑87
(認定NPO法人ふくしま再生の会事務所内)



目標 2030年以降の日本の未来を見据え「復興認識/関係人口」の増加

■「復興知FPBLプログラム」：福島浜通りをフィールドとしたプロジェクトベース学習カリキュラムや学生活動を醸成し、将来世代が復興知を学ぶ環境整備を行う。

■「復興知STEAMフィールド」：連携大学、飯舘村役場および地域の人々と協働し、飯舘村における復興知が根付くフィールドそのものが教材となるSTEAM教育の在り方を模索。

花卉ハウス内の土壌モニタリング



水田アート試行



農山村部における獣害対策



オンラインでの田植え・花見・空中散歩・稲刈り



村内里山部の再生と利用再開に向けた検討として、農村地域内の有機物循環に基づくリジェネラティブ農業の試み、ICT技術を活用した堆肥作り、およびキノコ・山菜の食文化復活に資する調査を実施する。

事業概要

放射能汚染地というハンデを背負った飯舘村の復興には、単なる技術的な除染やインフラの物理的再建だけで終わらず、その先に新しい日本型(小規模世代間交流型)農業の創設にチャレンジする若者の育成が肝要である。

FPBL(Field & Project Based Learning)

現場課題解決指向型学習

大学の学問知×現地の経験知
復興知を現場の課題解決と研究活動に展開

農を中心とした生活の復興と拡大のための研究プログラム



テラーメイドたい肥作り研究



農業残渣を活用したメタン発酵肥料作成実験

東大むら塾の寺子屋活動や村のプロモーション



復興知の将来世代継承と発展のための教育プログラム

現地における多様なステークホルダー（農家、通いの住民、移住者、道の駅、村役場など）との交流を含むフィールドワークプログラムを実施する。また地域愛着や自己効力感を指標として事業全体の評価を実施する。

福島を舞台としたフィールドミュージアムツアー



■【全体】今年度の活動を拡大し、分科会メンバーを含めた連携体制を強化し、村と大学が一体となった事業推進を目指す。

■【研究】飯舘村の農地に合う肥料や、広域電波システムを活かした研究の推進と拡大。

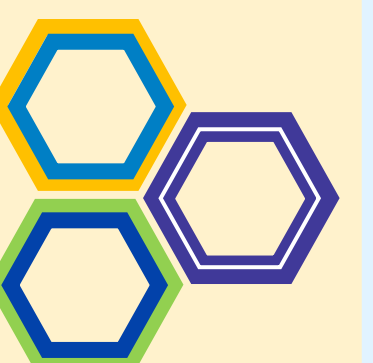
■【教育】オンライン×現地のハイブリッドプログラムの設計と対象人材拡大を目指す。

までい大学 (Madei University) 連携体制

飯舘村役場
合同会社MARBLiNG
ふくしま再生の会

【飯舘村内】
【大学連合】

東京大学
明治大学
福島大学



人材育成目標

飯舘村各地に根付いた農を中心とした生活の歴史と魅力、民族知に加えて、復興知とスマート農業の現場知を認知し、浜通りの農業とその未来に興味を示す将来世代を育成する。

これまでの実証研究教育の充実を図りながら
実証経験を仕組み(システム)化していく

今後